

みやぎ生協の取組み

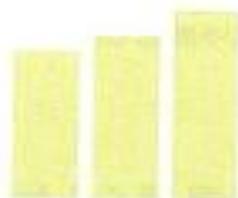
産直推進本部事務局長

沼沢美知雄

供給高(売上高)

1,003億72百万円

前年比101.9% / 店舗722億円、共同購入265億円、サービス17億円



出資金(資本金)

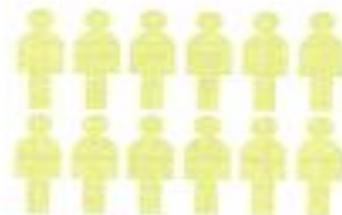
221億96百万円



職員数

6,841人

正社員38人、パート・アルバイト・嘱託5,802人
※関係団体への出向者含む



メンバー(組合員)数

644,559人

はん数
42,252はん

はんメンバー数
137,438人

(2012年3月20日現在)



主な事業

店舗・共同購入

新鮮野菜、食品、日用雑貨、衣類品などの供給事業

文化サービス事業・受託共済事業

主な加盟団体

日本生活協同組合連合会・
宮城県生活協同組合連合会・
生活協同組合連合会コープ東北サンネット事業連合

子会社

㈱コープフーズ東北・㈱宮城県学校用品協会
㈱コープラベル東北・㈱パティオ西多賀・
㈱コープ総合サービス・㈱コープエステート

東北6県の生協と共同しています

コープ東北サンネット事業連合

1995年に、東北の3生協(みやぎ生協、いわて生協、生協共立社)が参加してサンネット事業連合という組織を作りました。この事業連合は、東北の生協が商品企画や仕入れ、業務システムなどを共同で行うことにより、厳しい競争環境の中でも、それぞれの地域で事業経営力の強化を図ることを主な目的としています。共同購入事業は6県が統一することによって大きく供給を伸ばすことができ、店舗でも東北の全ての店舗で統一企画を実施し大きな成果をあげています。みやぎ生協はこの事業連合で中核的な役割を果たしています。



本日の報告内容

1. 放射性物質問題への基本対応
2. 産直(契約)牛乳を例に
3. 全国の生協とともに「陰膳方式」での普段の食事の中での放射性物質量の検査
4. まとめ

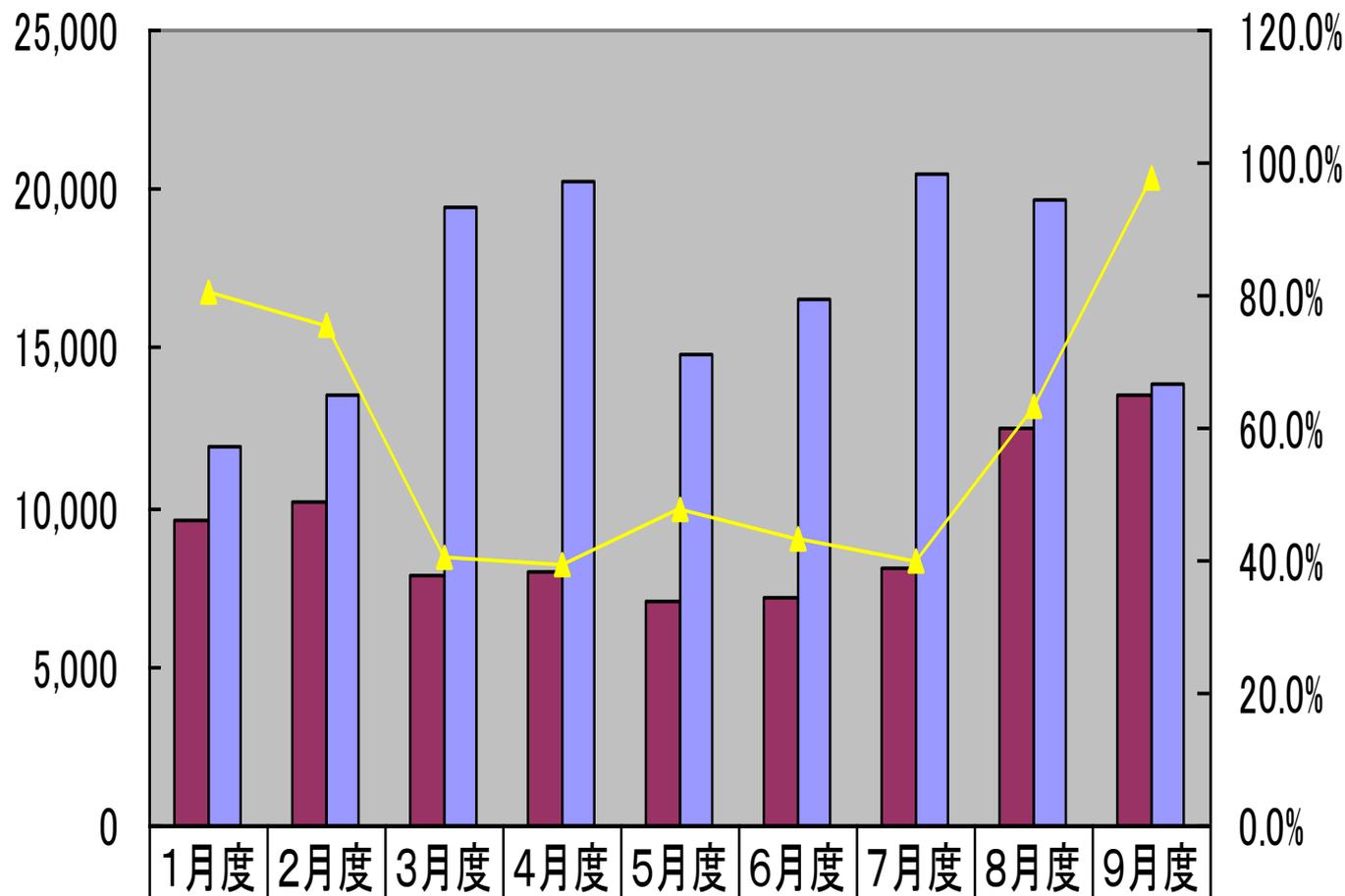
放射性物質問題への基本対応

1. 組合員が安心して商品を利用できる生協づくりを進めます。
2. 商品の放射性物質検査を年間計画に基づいて行ないます。
3. 組合員や職員の学習を深めて、正しい情報に基づく対応をします。
4. 地域経済の活性化のために被災者支援、地産地消商品の普及に努めます。

■ 鳴子上原牛乳1ℓ 販売数

前々年販売数 ▲

前々年比

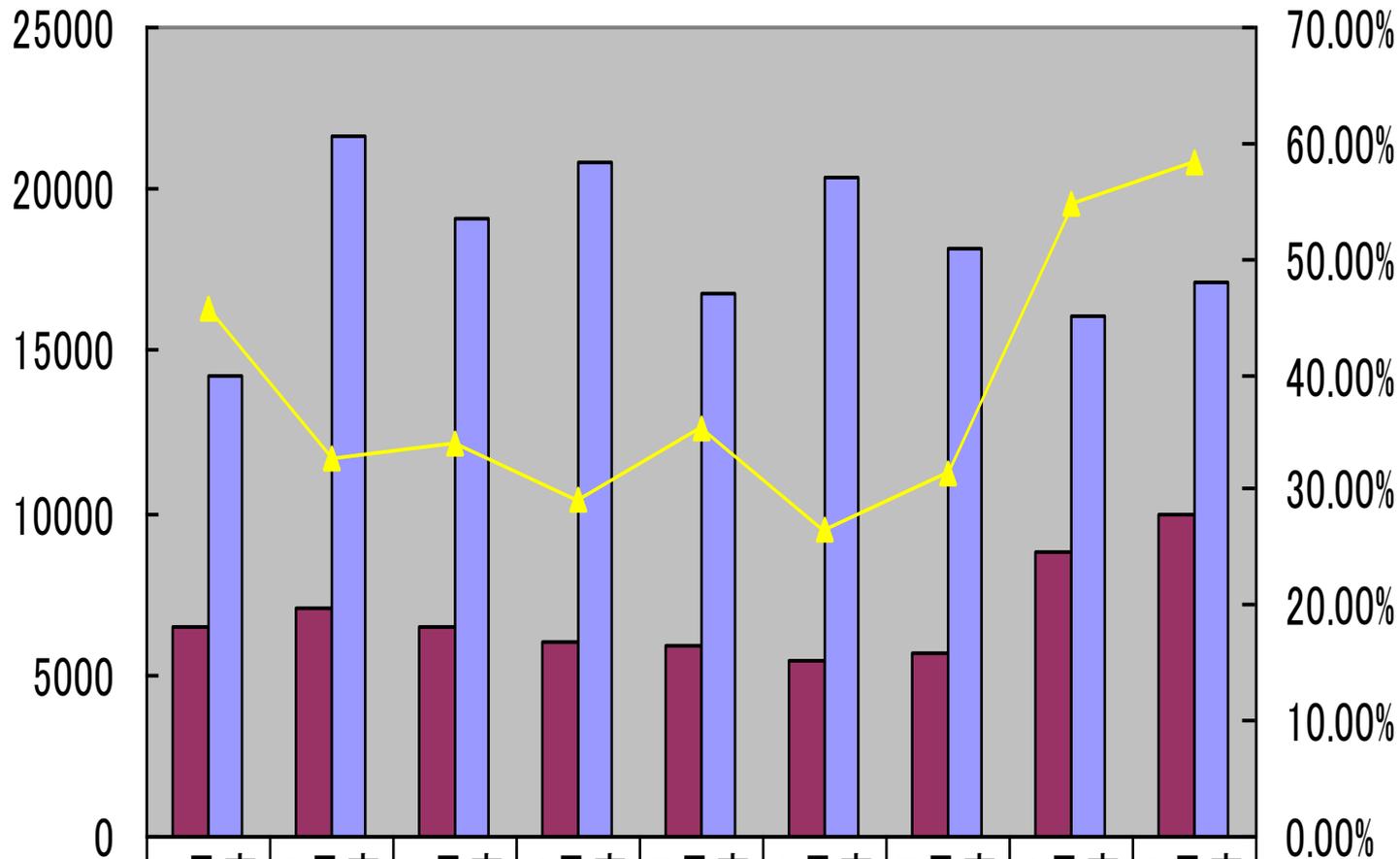


■ 鳴子上原牛乳1ℓ 販売数	9,604	10,201	7,873	8,023	7,069	7,148	8,151	12,461	13,570
■ 前々年販売数	11,933	13,505	19,426	20,203	14,775	16,511	20,443	19,677	13,875
▲ 前々年比	80.5%	75.5%	40.5%	39.7%	47.8%	43.3%	39.9%	63.3%	97.8%

■ 角田丸森牛乳1ℓ 販売数

▲ 前々年販売数

▲ 前々年比



■ 角田丸森牛乳1ℓ 販売数	6490	7089	6484	6050	5949	5389	5729	8822	10008
■ 前々年販売数	14203	21663	19127	20802	16788	20352	18177	16066	17134
▲ 前々年比	45.70%	32.70%	33.90%	29.10%	35.40%	26.5%	31.5%	54.9%	58.4%

協同組合として放置できない

- 小売業は、売れない商品を売ることはしない。
- 30%台まで下がった売上げは商品の製造中止を意味している。
- 7月から組合員に利用のお願い
- 店舗チーフの産地研修会、自店の数値目標の設定。

入荷後4日での売切り指示

- DVDの作成
- 組合員協力による店舗での試飲
- 宅配(共同購入)でもお勧め活動



矩形範囲指定(R)



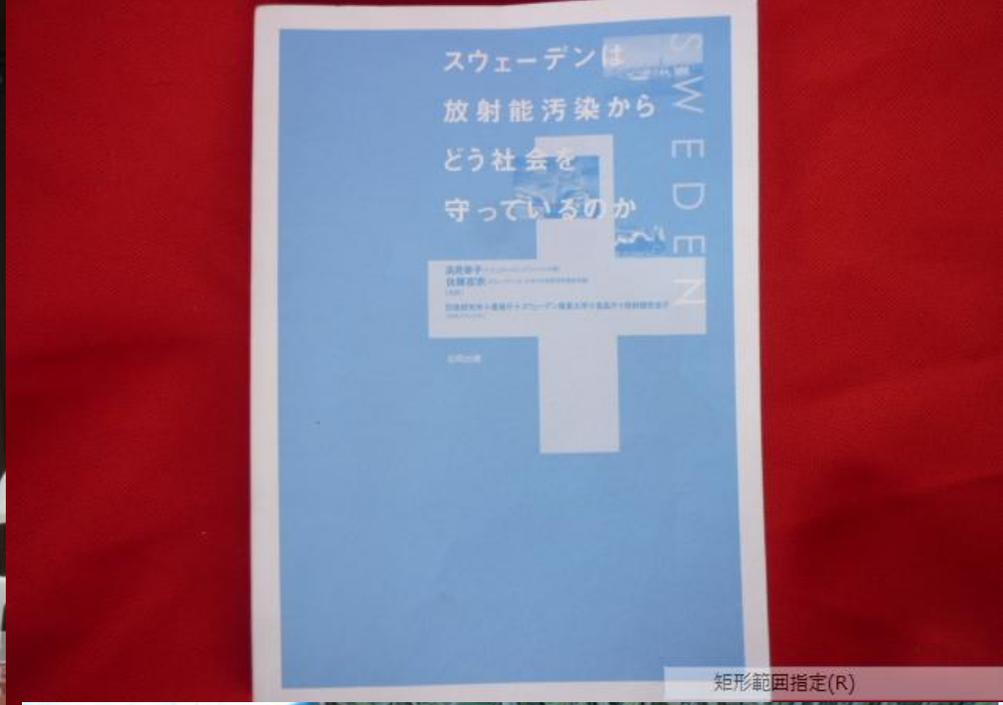
矩形範囲指定(R)



矩形範囲指定(R)



矩形範囲指定(R)



矩形範囲指定(R)



矩形範囲指定(R)



矩形範囲指定(R)





くくみ野
おいしい牛乳

155 155

みやぎ生 138 は、「産消直結」です。

218 218

208 198 228

208 208

218 218

188 188

くくみ野
生産委員会

矩形範囲指定(R)



永年性牧草

矩形範囲指定(R)



矩形範囲指定(R)



単年生牧草

矩形範囲指定(R)



矩形範囲指定(R)

産直牛乳での「自給単年生牧草」 の給餌再開

第一段階として

1. 震災発生以降に耕地を反転耕起・播種
2. 生産者ごとに自給牧草の放射性物質検査
3. メーカーによる原乳の検査強化とシュミレーション
4. みやぎ生協の自主検査を月1回から週1回へ変更。

売上げを戻すことと同時に生産者の原価引下げ

消費者は「ネガティブ」よりも「ポジティブ」の情報が欲しい

品名	検査項目	検査結果	検査場所
限定 (県・26)	下限値は	9~2	
		3~6	
		68~13	
仙南ク		6・8 (同気仙沼湾)	同
登米		16 (同気仙沼市唐桑沖)	▽
集乳所、		同4・1 (同金華山江の	
北所、大崎		島沖)▽シロサケ0・38(同	
菌床マイ		三陸南部沖)▽ヤナギムシ	
施設▽シ		ガレイ3・8 (金華山以南	
イワシ(金		宮城県沖)▽スズキ52、ヒ	
部沖)▽ス		ラメ36(同東松島市浜市沖)	
ダイ、ミス		▽ヒラメ6・2 (同金華山	
沖)▽カツ		沖)▽ヨシキリザメ0・99、	
▽サンマ		メバチ0・71 (太平洋沖合	
ギンザケ種		北部)	

陰膳方式による家庭の食事の検査

- ①実施時期：2012年7月25日～2012年9月21日
- ②実施数：みやぎ生協組合員50軒
栗原市2、仙台市6、丸森町5、登米市2、名取市4、角田市5、気仙沼市2、白石市5、柴田町3、大崎市1、川崎町5、亶理町3、石巻市3、大河原町2、山元町1
- ③方法：各家庭の2日分の食事(6食分と間食)を1サンプルとして、全て混合し測定
- ④測定器：ゲルマニウム半導体検出器
- ⑤検出限界：1Bq/kg
- ⑥測定物質：セシウム134、セシウム137、カリウム40
- ⑦検査機関：日本生協連検査センター

結果

- ・サンプル全体の**98%**は放射性セシウムが**不検出**でした。
- ・50サンプル中49サンプルからは、検出限界(1Bq/kg)以上の放射性セシウムは検出されませんでした。1Bq/kg以上の検出が見られたのは1件で、去年の検出数と同じでした。
- ・検出物質は**セシウム137**で**1.1Bq/kg**でした。検出された家庭が**同じ食事を1年間摂ったと仮定**(検出していないセシウム134は、検出限界の1.0Bq/kg含まれていたものとして算出)すると、一人当たりの内部被曝量は**0.019mSv**となり、「**食品から年間1mSv**」に対して**2%程度**となります。

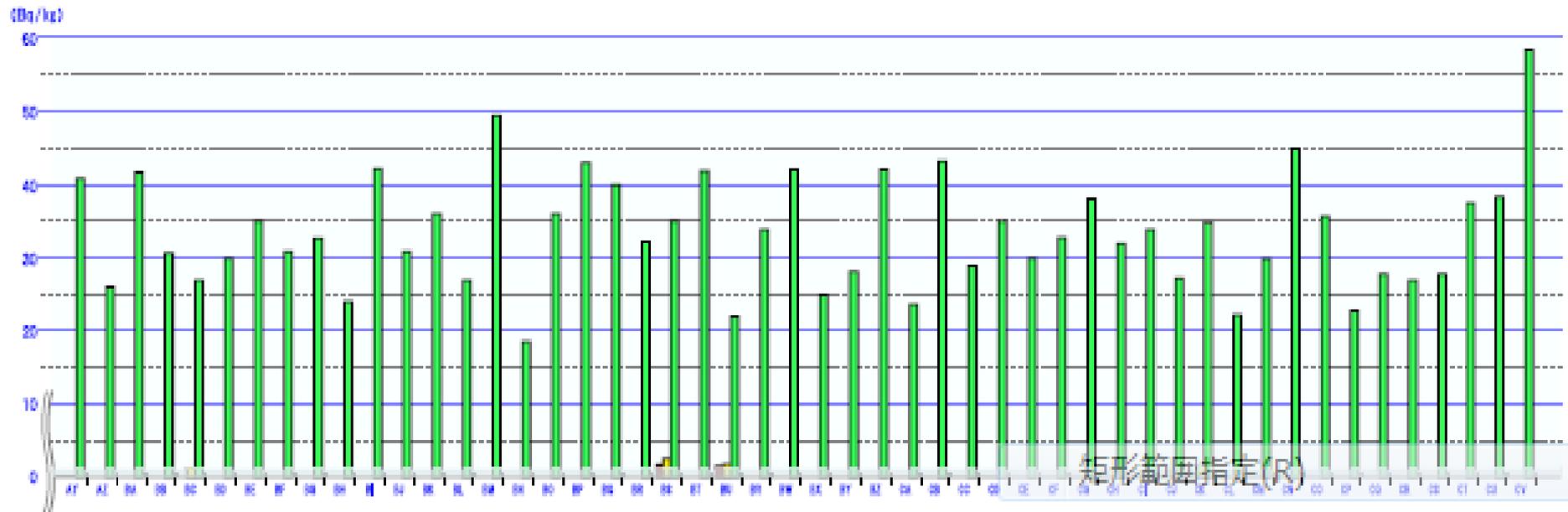
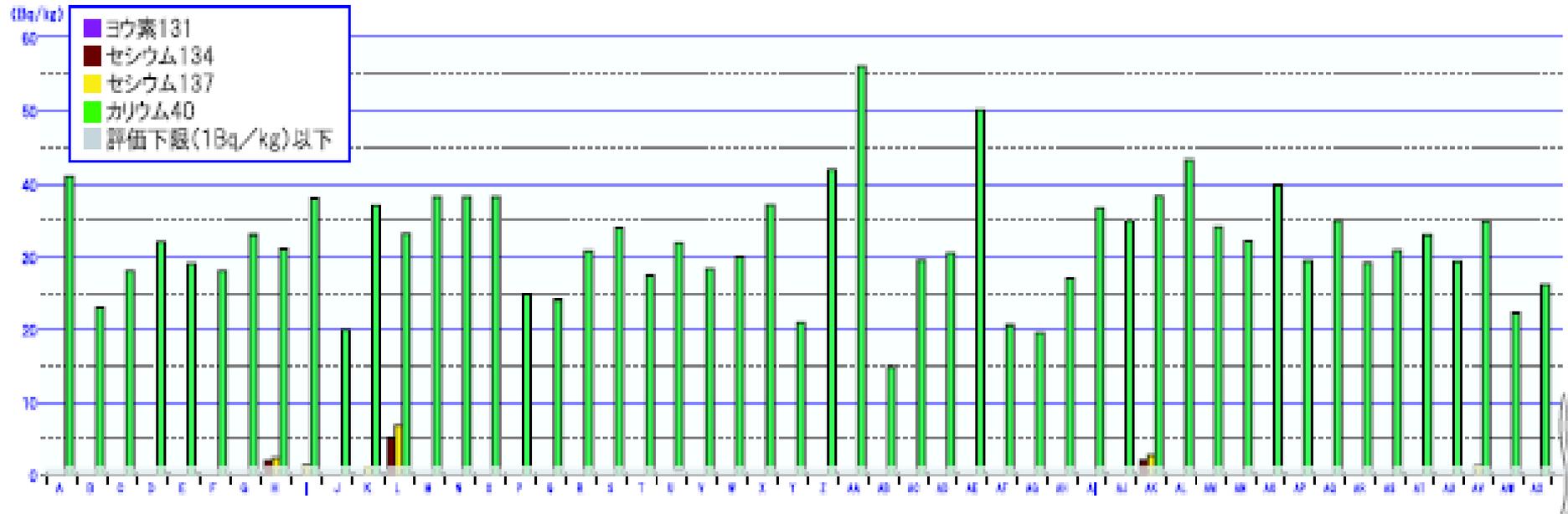
- 実施時期：2011年11月14日～2012年4月13日
- 実施数：250件（内、福島県 100件）
（【表1】参照）
- 対象地域：岩手、宮城、福島、群馬、栃木、茨城、埼玉、東京、千葉、神奈川、新潟、長野、山梨、静岡、愛知、岐阜、三重、福岡の18都県
- 方法：各家庭の2日分の食事（6食分と間食）を1サンプルとして、すべて混合・均一化した後に測定
- 測定器：ゲルマニウム半導体検出器
- 検出限界：1Bq/kg
- 測定物質：セシウム134、セシウム137、ヨウ素131、カリウム40
- 検査機関：日本生協連、東海コープ事業連合、コープこうべ、コープ九州事業連合（エフコープ）の検査センター

【表1】参加世帯数と調査結果概要

	調査実施数	検出	測定結果(Bq/kg)
合計	250	11	検出せず～11.7
岩手県	10	0	検出せず
宮城県	11	1	検出せず～ 1.0
福島県	100	10	検出せず～11.7
群馬県	10	0	検出せず
栃木県	10	0	検出せず
茨城県	10	0	検出せず
埼玉県	10	0	検出せず
東京都	10	0	検出せず
千葉県	11	0	検出せず
神奈川県	10	0	検出せず
新潟県	9	0	検出せず
長野県	10	0	検出せず
山梨県	9	0	検出せず
静岡県	10	0	検出せず
愛知県	5	0	検出せず
岐阜県	2	0	検出せず
三重県	3	0	検出せず
福岡県	10	0	検出せず

※測定結果はセシウム134とセシウム137の合計
（検出限界はそれぞれ1Bq/kg）

陰膳方式放射能量調査結果 (2012年4月12日更新)

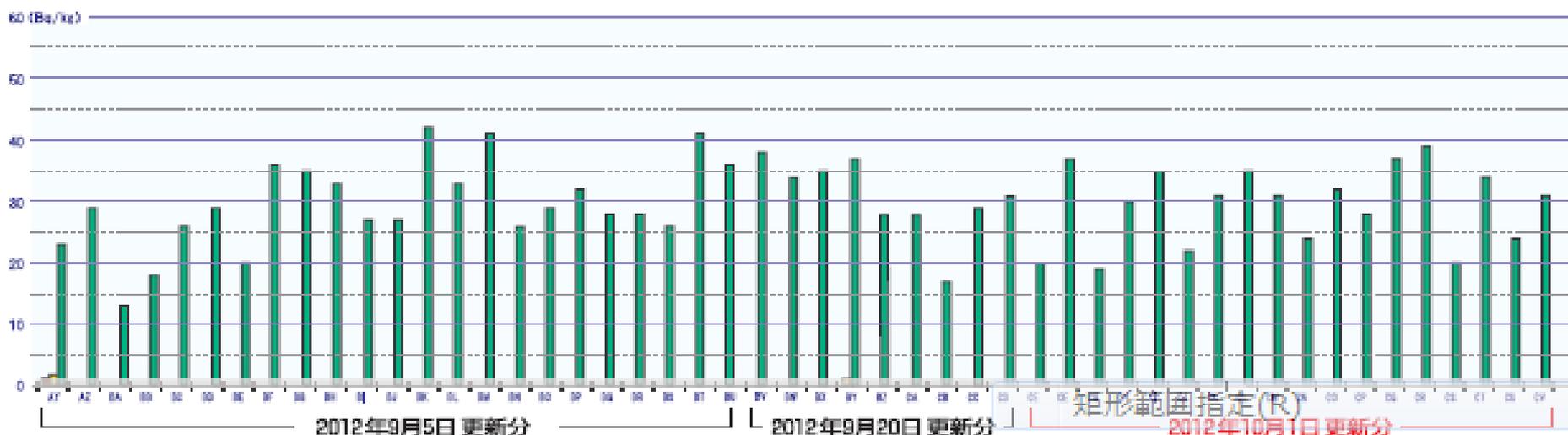
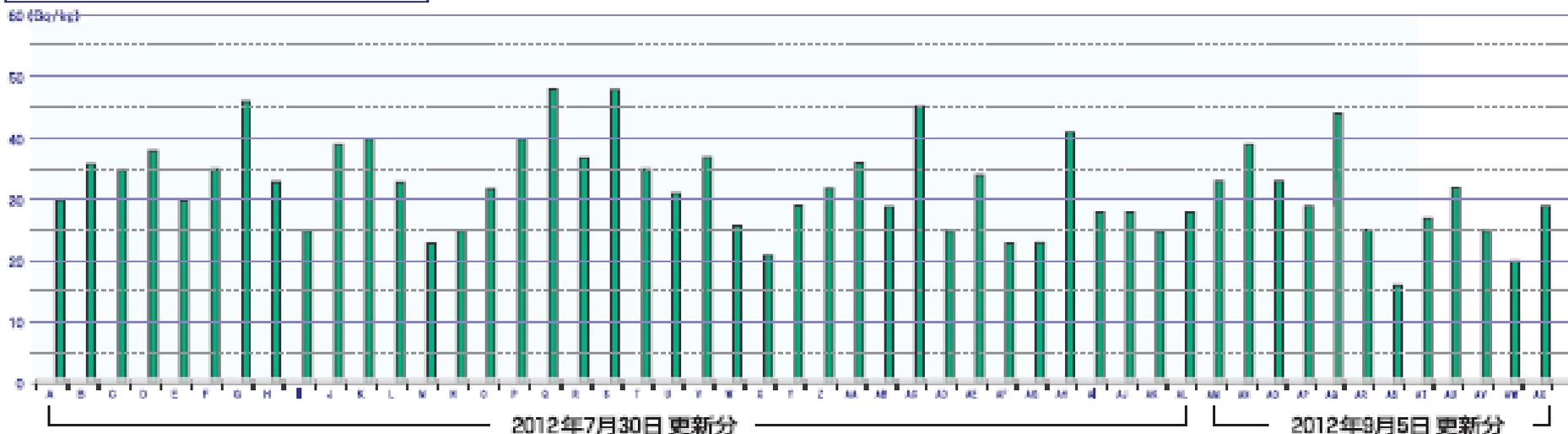


矩形範囲指定(R)

陰膳方式による食卓の検査

■ セシウム134 ■ カリウム40
■ セシウム137 ■ 評価下限(1Bq/kg)以下

実際の食事の放射性物質測定結果 (2012年10月1日更新)



【表2】検出した11家庭の放射性セシウム摂取量と食事からの内部被ばく線量推計

検出した家庭	食事の量 (kg/日)	放射性セシウム (Bq/kg)		内部被ばく線量 (mSv/年)
		セシウム134	セシウム137	
1	1.71	検出せず	1.00	0.020
2	1.50	検出せず	1.20	0.019
3	1.97	検出せず	1.00	0.023
4	1.95	検出せず	1.10	0.024
5	2.00	検出せず	1.20	0.025
6	1.72	検出せず	1.40	0.023
7	1.43	1.20	1.70	0.023
8	1.78	1.60	2.20	0.038
9	1.70	2.00	2.40	0.043
10	0.86	5.00	6.70	0.057
11	4.39	2.40	3.00	0.136
4月からの年間許容線量				1.000

※「検出せず」のセシウム134を1 Bq/kgと仮定して、内部被ばく線量を求めました。

全国の陰膳方式での検査結果から

1. 250サンプル中239は検出限界以下。
不検出が全体の95.6%
2. 1Bq/kg以上の検出は11件
3. 11家族のサンプルと同じ食事を1年間食べ続けたと仮定すると、食事からの内部被爆線量は0.019~0.136mSvと推定。
「新基準」の根拠の1mSvの1.9~13.6%
4. 11サンプルの中央値1.40Bq/kg
年間被爆線量は0.023で、1の2.3%

2012年以降の計画

引き続き、日生協を中心に全国の生協・組合員と情報や課題を共有化し、更なるリスクコミュニケーションを図ります。

国に対しては、現状を正しく分かりやすく伝えることや、新しい基準に対応した地方自治体での検査体制の強化などを引き続き要望します。

まとめ

今年2012年は「国際協同組合年」です。協同組合が果たす、経済・社会への貢献やさまざまな活動をさらに広めるために今後への期待とともに国連が定めた国際年です。

みやぎ生協は協同組合として、よりよい社会を築くために組合員である消費者とともに地域経済の活性化を考えながら食卓への安心確保に努めてゆきます。